



## 医師不足地域を支える医師



伊東市民病院  
耳鼻いんこう科科長兼総合診療科科長  
山田 哲也 先生

私は初期研修の後、100床弱の病院内科医として働きました。その後、耳鼻科の専門研修を受けて専門医をとりました。現在は250床の病院で病院耳鼻科医、在宅診療医として働き6年たちます。その間、数日から2か月程度の一人診療所、無床診療所、数十床病院的医療支援も行っています。

様々な規模の医療機関で働くと、どの規模の病院で働くかよりもどのような相談相手がいるかが若手の働きやすさに関係していると感じます。地方であっても相談しやすい上司、同僚、スタッフ、自分のツテがあれば少人数で働くことの不安は少ないです。情報や勉強面ではインターネット等もありそれほど困らなかったです。むしろ小規模であるほど科ごとの縦割りが少なく、直接にコミュニケーションがとりやすく、科にとられずに外科や整形外科など様々な経験をしてきました。また実際の住民の医療ニーズを感じることができ、自分の将来を見つめる機会となり、やりがいにつながりました。

ikigaiは「好きなこと」「求められていること」「得意なこと」「稼げること」から構成されます。好きなことはなんですか?得意としたことは何ですか?病院からではなく住民から求められていることは何ですか? 自分の将来について考えてみてください。

私は一度地域に出てニーズを知ったうえで追加の研修を受け、自分のやりたい医療を展開できるようになった自分のパスはよかったと思います。皆さんも10-15年目あたりで本当にやりたいことを理解し、実現できるようなパスを描けるよう、様々な経験ができるといいと思います。地域医療は自分と住民を見つめる場としていいところです。